

# 第14回 宮崎地方会活動報告

開催日：2020年1月11日(土)

場所：フィオーレ KOGA 看護専門学校

参加者：30名

## 特別発言

医療法人健寿会 黒木病院 理事長 牧野剛緒先生

宮崎県の地域医療の医師確保は全国32位であり、医師の働き方改革で医師の長時間労働に対して、医師の指示の元で医師事務作業補助の充実が必要であるとの発言でした。



## 教育講演

「医師事務作業補助者がしておきたい医学英語」  
宮崎県立日南病院 木佐貫 篤先生

医学英語を学ぶ上で必要なことはわからない用語は医学辞書で確認する習慣をつけることが基本あり、医学用語はラテン語由来の占める割合が多く、その部分の割合が解剖学名に由来する。現在はスマホ等検索し簡単に答えが出てくるが多くの意味があるため、医学英語に利用される基本的な接頭語、接尾後を知っておくこととフルスペル医学英語を理解し略語にたよらず自分で調べることが大事であるとの発表でした。



## シンポジウム

### 1. 院内にクラークを普及させていく方法

- ・費用対効果を示していく
- ・クラーク導入のメリットを示していく
- ・現状をまず把握
- ・医師事務作業補助体制加算以外の効果を示していく（医師の具体的な負担軽減等）
- ・タイムスタディを行って評価する

## 2. 資格取得等のプランについて

- ・医療事務の資格を持っている人が採用基準（宮大 Hp）
- ・入職後に診療情報管理士の資格取得にむけたサポートをしている（宮大 Hp）。
- ・民間資格もいくつかあるので、病院としてどの資格を基準とするのか絞る必要がある（古賀 Hp）。
- ・32 時間研修は院外の研修を活用する。

## 3. 経験のないクラークの教育をどうしているか

- ・1 ヶ月 OJT で指導。（潤和会記念 Hp）
- ・1 ヶ月マンツーマンで医事課から指導スタート。病院独自のラダーを使いながら指導し、1 年未満で独り立ちする（池井 Hp）

## 4. 人員配置、欠員時の対応をどうしているのか

- ・ラダーの作成は必要。ラダーに合わせてローテーションを行っていく。
- ・2 年～3 年でローテーションを行っている（潤和会記念 Hp）。
- ・グループで業務が行えるような体制作りを行っている（宮大 Hp）

## 5. いろいろな個性、年代、経験を持ったクラークとどう接しているのか。どのように業務を行っているのか。

- ・世代によって考え方も変わってきているので教育が必要。
- ・どのような人でも共通で指導・評価が行えるようラダーに合わせて教育を行い、評価を行っていく。

## 6. 他の医療機関はクラークがどのような業務をおこなっているのか。今後増えていく業務にはどのようなものがあるのか。

- ・外来診療補助、書類作成からスタート（潤和会記念 Hp）。
- ・データ登録業務（NCD 等）、検査案内、病棟での業務が今後増えていく業務と予想される。
- ・ER に対応するため、看護師の負担軽減も含め、今後ますますクラークの活用が期待される。

## 7. 退院時に悪性の手技で算定していたが、病理の結果が良性であった。

### 診断書の病名と手技が合わず、保険会社から問い合わせがあった。他院でそのような事例はあるか。

- ・悪性の手技でも疑い病名で診断書は作成可能。
- ・原則、病理結果がでるまで患者さんに書類はお渡ししない。結果が出てから書類を完成させている。
- ・クラークと医事課スタッフで情報共有をしている。

## 8. 退院時サマリーを退院時に患者さんに渡しているか。

- ・通常、退院時サマリーは患者さんにお渡しすることはない。希望があれば、カルテ開示で対応。

## 9. NCD 登録時、根治度の項目がある。病理結果のどこをみれば判断できるのか。

- ・根治度は医師が判断することなので医師に確認。

## 10. 書類作成ソフトを導入するには。

- ・電子カルテ更新時に仕様書に追加し導入。
- ・導入のメリットを提案していく。

## <まとめ>

普段では聞く事の出来ない疑問・質問に対し多く学ぶことの出来た地方会でありました。今回の地方会で学んだ事を普段の業務に活かさせていただければ感じました。

最近のアンケート結果にも、第2回目の開催を期待する声もありますので今後皆さまの意見を幅広く取り入れた地方会を開催していきたいと感じました。

